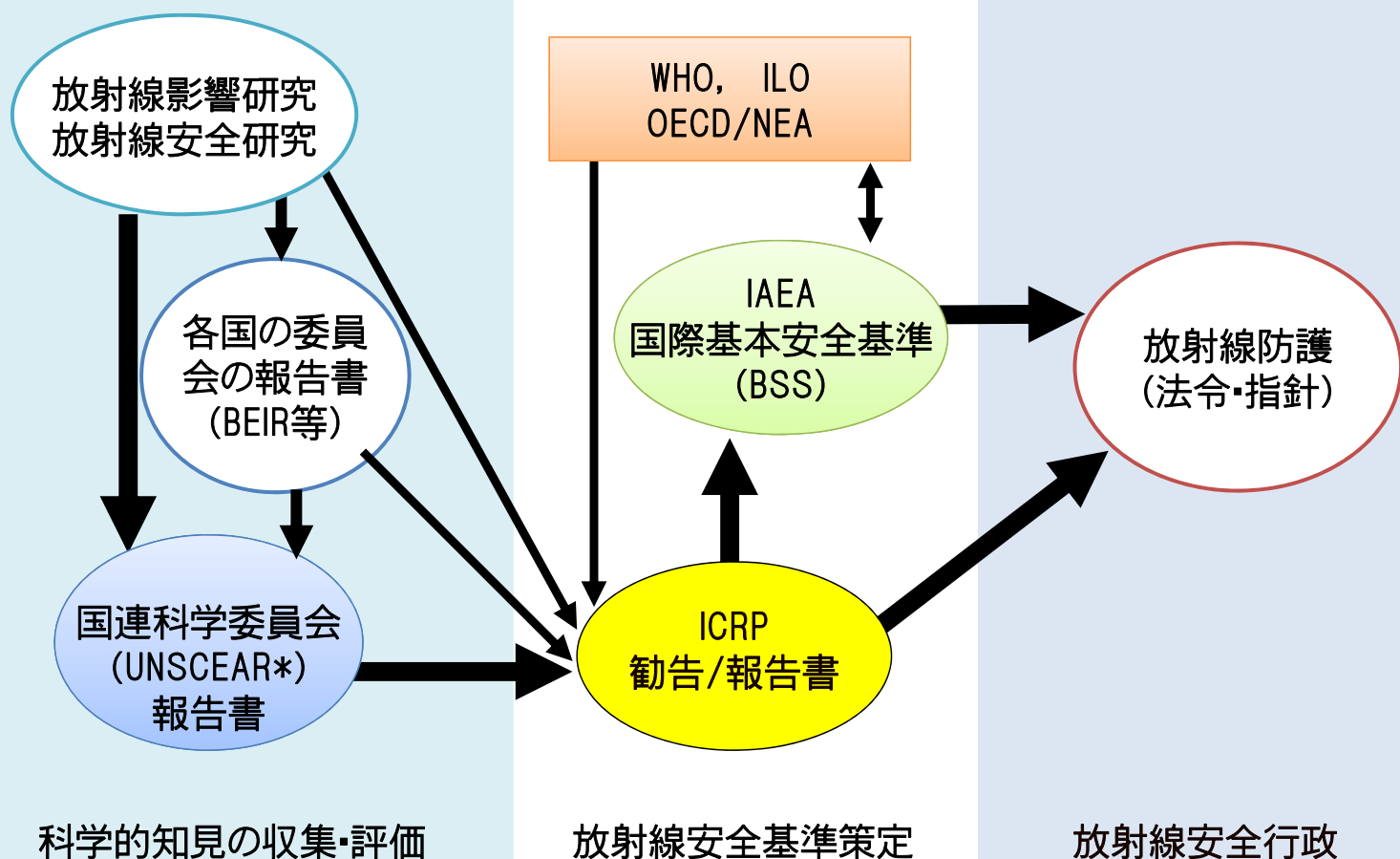


科学的情報発信のための ナレッジベース構築の取り組み

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所 放射線防護情報統合センター
センター長 神田玲子

放射線防護情報の流れ



科学的知見に関する情報発信活動の概要

東電福島第一原発事故前

●国際機関刊行物の翻訳版出版



●書籍



●ポータルサイト

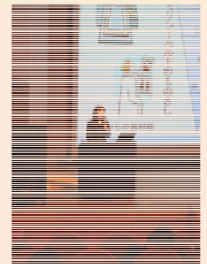


広報活動

●講演会(一般向け)



東電福島第一原発事故後



放医研の研究成果の解説(福島関連)

ナレッジベースの掲載内容案(予定も含む)

カテゴリ	分野	範囲(例)
1. 基本解説	放射線防護	防護体系、線量、医療被ばく、環境防護、自然放射線
	生物学的影響	しきい値、DDREF、LNT
	線量・リスク評価	(事故や汚染地域の)線量評価、疫学調査結果
2. 理解を深めるためのコンテンツ	国際的機関の見解	IAEAの動向/RASSCでの議論 ICRPの動向/ICRPの刊行物/勧告の変遷 OECD/NEAの動向/OECD/NEAの刊行物 UNSCEARの動向/UNSCEARの刊行物 WHOの動向/WHOの刊行物
	科学論文からの知見	新規性の高い論文、社会的インパクトの高い論文
	我が国の法令等による規制	RI法(及び関連法令・告示) 電離則
3. 理解を助けるためのコンテンツ	用語集	放射線影響/リスク評価/放射線防護
	QA集	
4. 限定公開	法令等の根拠DB	放射線に関連する全法令を対象とする

放射線影響・防護ナレッジベースのメインページ

The image shows a screenshot of the Sirabe website's main page. A blue navigation menu is overlaid on the left side, listing various categories and sub-items. The website header features the 'Sirabe' logo and the text 'Site on Radiological'. A search bar is located in the top right corner. The main content area includes a 'HOME' section with a title '本サイトについて' and a paragraph of introductory text. Below this, there is a 'コンテンツは' section with a list of categories and a '理解を深める' section with a list of topics. A '新着の記事' section is also visible at the bottom left of the main content area. The right sidebar contains '外部リンク' and 'フォントサイズ変更' sections.

Main Menu

- ▶ Home
- ▶ カテゴリ別
 - 放射線防護
 - 放射線防護の生物学的側面
 - 線量評価及びリスク評価
- ▶ 理解を深める
 - 国際機関の動向
 - 重要論文の解説
- ▶ 理解を助ける
 - 放射線に関する質問集
 - 用語集

検索機能

検索...

外部リンク

- 放射線計測システム【放射線医学総合研究所】
- 自然環境放射性物質データベース【放射線医学総合研究所】
- 知のアーカイブ【放射線医学総合研究所】
- 放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料【環境省】

フォントサイズ変更

- ▶ 大
- ▶ 標準
- ▶ 小

HOME

本サイトについて

放射線医学総合研究所では、原子力規制庁からの委託により、放射線規制の根拠となる放射線影響や防護に関する科学的情報や国際機関の見解等について、誰もがWEB上で簡単に調べられるよう、このサイトを作成いたしました。

コンテンツは

- 「カテゴリ別」
- 理解を深めるための「重要論文の解説」と「国際機関の動向」
- 理解を助けるための「放射線に関する質問集」と「用語集」

に分かれています。

全コンテンツは、放射線影響・放射線防護に関する知見の収集・整理委員会の助言等を受けつつ、放射線医学総合研究所が取りまとめたものです。そのため、文責は放射線医学総合研究所にあります。またコンテンツにつきましては随時追加・内容更新していく予定です。

別途出典を明示した部分以外については、出典として本サイト名を明示していただければ、無償で自由に引用することができます。ただし営利を目的とした利用は固くお断りいたします。

記載内容や文献引用に関してお気づきの点等ございましたら sirabe@nirs.go.jpまでご連絡ください。

新着の記事

- Risk of cancer from occupational exposure to ionising radiation: retrospective cohort study of

放射線影響・防護ナレッジベースの構造 (ハード面の準備)

(一般向け)放射線に関する質問集から情報を探す 1/2

Main Menu

▶ Home

▶ カテゴリ別

放射線防護

放射線防護の生物学的側面

線量評価及びリスク評価

▶ 理解を深める

国際機関の動向

重要論文の解説

▶ 理解を助ける

放射線に関する質問集

用語集

タイトル

ICRP2007年勧告では、100mSvはどう考えているのでしょうか。

緊急被ばく状況下における参考レベル20~100mSvの根拠は何でしょうか。

ICRP勧告においては、「低線量被ばく」「長期被ばく」「外部被ばく」について、どのような科学的根拠を基に防護措置を提案しているのでしょうか。

ICRP勧告においては、年齢や性別等の属性による差異を考慮していないのでしょうか。

ICRP勧告で推奨されている代表的個人の線量評価は、どのように行われるのでしょうか。

ICRP勧告の線量値は安全の基準を示したものでしょうか。

ICRP2007勧告の職業被ばくの線量限度20mSvの根拠は何でしょうか。

現存被ばく状況の参考レベル1~20mSvの根拠は何でしょうか。

ICRPが公衆被ばくの線量限度を年間1mSvと定めた根拠は何でしょうか。

ICRP勧告がいうところの「特殊な環境における許容被ばく線量限度5mSv」とはどのようなものでしょうか。

(一般向け)放射線に関する質問集から情報を探す 2/2

分野	ICRP等の国際基準
問	現存被ばく状況の参考レベル1~20mSvの根拠は何でしょうか。
答え	<p>ICRPは、2007年勧告(Pub.103)において、個人が通常、必ずしも被ばくそれ自体ではなく、被ばく状況から便益を受けるような状況における参考レベルを1~20mSvに設定しており、このような状況の事例の一つとして現存被ばく状況※(緊急事態後の長期汚染地域に住居する際の被ばく状況)を挙げています。なお、この緊急事態後の長期汚染地域について、国は、一般的に、その領土の一部を失うことを受け入れることはできず、また住民のほとんどは非汚染地域に移住させられるより、総じて自身の住居に止まることを好むことから、汚染地域に住居し続けることは、住民、社会双方とも便益を見出すことになるとしています。</p> <p>※現存被ばく状況とは、ICRPが2007年勧告(Pub.103)で導入した状況に基づきアプローチにおける3つの状況の一つで、緊急事態後の長期汚染地域などから被ばくする状況をさします。</p> <p>この参考レベル1~20mSvの根拠としては、 ・この汚染レベルは、持続可能な人間活動を妨げるほど高くはなく、当局は人々に汚染地域を放棄させるのではなく、人々が汚染地域に住み続けることができるようにするために必要な全ての防護対策を実施しようとする ・1mSv/年以下は、防護対策がほとんど正当化されないレベルであること、20mSv/年は、防護対策の便益とリスクのバランスが取れる上限値であると考えられること から、現存被ばく線量の参考レベルはこの範囲に設定されています。</p> <p>(参考) ① 放射線審議会基本部会:ICRP2007年勧告の国内制度等への取入れについて(第2次中間報告)、P65付録 ② ICRP Pub.111 (24)、(48)、(50)</p>
キーワード	1mSv、20mSv、参考レベル、現存被ばく
図表	
関連文献	
関連サイト	<p>国際放射線防護委員会の2007年勧告(日本語版) http://www.icrp.org/docs/P103_Japanese.pdf 原子力事故または放射線緊急事態後の長期汚染地域に住居する人々の防護に対する委員会勧告の適用(ICRP Pub 111の日本語版) http://www.icrp.org/docs/P111_Japanese.pdf</p>
作成日	2015/02/28

◎クリックで用語集に飛ぶことができる
例)参考レベル、放射線審議会など

大分類	人の放射線防護基準
中分類	緊急被ばく状況下における参考レベルの根拠
説明	この用語集では、ある特定の状況下での放射線被ばくによる健康被害を避けるための防護措置を提案している。この防護措置は、その特定の状況下での放射線被ばくによる健康被害を避けるための防護措置を提案している。この防護措置は、その特定の状況下での放射線被ばくによる健康被害を避けるための防護措置を提案している。

◎関連解説記事に飛ぶことができる
例)緊急事態(ICRPの見解の変遷)

大分類	放射線防護
中分類	ICRP1977年勧告~1990年勧告
説明	ICRP Publication 26(1977年勧告)では、通常の状況において、わが国で作業中の被ばく線量を20mSv/年以下に制限することを勧告している。この勧告は、その後のICRPの勧告と一致している。ICRPの勧告は、その後のICRPの勧告と一致している。ICRPの勧告は、その後のICRPの勧告と一致している。

◎クリックでリンク先に飛ぶことが出来る



(行政向け) 解説記事から情報を探す

Main Menu

Home

カテゴリ別

放射線防護

放射線防護の生物学的側面

線量評価とリスク評価

理解を深める

国際機関の動向

重要論文の解説

理解を助ける

放射線に関する質問集

用語集



タイトル

しきい値とICRPの放射線防護体系

しきい値と確定的影響

「低線量」が意味する線量域

低線量・低線量率効果

動物実験に見る低線量・低線量率効果

逆線量率効果

線量・線量率効果係数

低線量被ばく特有の生物現象

LNTに関する国際機関の見解

低線量放射線影響に関するICRPの見解

低線量放射線影響に関するフランス科学・医学アカデミーの見解

低線量放射線影響に関する米国科学アカデミーの見解

ヒトにおける遺伝リスクの推定

遺伝リスクに関するICRPの見解

しきい値と直線しきい値なし(LNT)モデル

◎クリックで用語集、関連記事などに飛ぶことができる

Table with 2 columns: Category (大分野, 中分野), Title, Description, Keywords, Summary, Reference.

◎オリジナル論文がわかる(著作権の制約有)

(専門家向け) 検索機能から情報を探す

甲状腺がん

検索

合計: 結果が4件見つかりました。

1. 低線量被ばくにおいては、子どもの方が甲状腺がんの発症率が高いことを除き、年齢による影響の差が明らかでないことは、国際的な共通認識なのか、遺伝的影響についても同様のことが言えるのか、(放射線に関する質問集)

分野 低線量被ばく 問 低線量被ばくにおいては、子どもの方が甲状腺がんの発症率が高いことを除き、年齢による影響の差が明らかでないことは、国際的な共通認識なのか、遺伝的影響についても同様のことが言えるのか、(放射線に関する質問集)

2. チェルノブイリ原発事故による被ばくの影響は、子どもの甲状腺がん以外に確認されていないのか、(放射線に関する質問集)

分野 チェルノブイリ原発事故 問 チェルノブイリ原発事故による被ばくの影響は、子どもの甲状腺がん以外に確認されていないのか、(放射線に関する質問集)

3. Thyroid Cancer Detection by Ultrasound among Residents Aged 18 Years and Younger in Fukushima, Japan: 2011 to 2014 (2011年から2014年の間、18歳以下福島県民が超音波エコーにより検出された甲状腺がん) (重要論文の解説)

大分野 重要論文の解説 中分野 低線量被ばく 説明 背景: 2011年3月に発生した東日本大震災により、放射性物質が福島第一原子力発電所から放出され、結果的に被ばくした住民の中で甲状腺がんの過剰発生が認められることが懸念された。

4. Thyroid cancer risk in Belarus among children and adolescents exposed to radioiodine after the Chernobyl accident. (チェルノブイリ原発事故からの放射性ヨウ素により汚染された小児および青年に見られるベラルーシでの甲状腺がんリスク) (重要論文の解説)

大分野 重要論文の解説 中分野 低線量被ばく 説明 今日までの調査の結果、チェルノブイリ事故の際に放出された放射性ヨウ素に被ばくした子供及び青年男女の間で、甲状腺がんが増加していることが明らかになっている。しかしながら、スクリーニング効果の影響、ヨウ素欠乏の影響、被ばく時年齢及びその他の因子と線量-反応関係に関わる知見が乏しかった。これらの問題を明らかにするために、ウクライナとベラルーシの事故当時18歳以下であった男女を対象とする下記のコホート研究が行われた。

◎用語集、解説記事に飛ぶことができる(例) オッズ比、信頼区間

Table with 2 columns: Category (大分野, 中分野), Title, Description, Keywords, Summary, Reference.

◎関連論文の解説記事を読むことができる

◎Letter to editorに飛ぶことができる